

西浦みらい工房 2021.11.25

～西浦の学校と地域の未来をデザインする「子どもたちの笑顔と未来のために」～

「新西浦小中学校・公民館構想」発表されました。

先日、蒲郡市の総務部公共施設マネジメント課より、「地区基本計画に基づく塩津地区・西浦地区の基本計画が完成した」という広報が各御家庭に配布され、ご覧になった方もいるかと思います。数年前から練られてきたものですが、いよいよ本格的な実施設計が始まります。

5年後、10年後の西浦を見据えながら、小学校・中学校・公民館が一緒になった校舎になります。校舎が完成するころには、小中学校がオール1クラスになる予定です。それに向け、新しい教育カリキュラムが必要となります。地域に開かれた学校づくり、地域に根ざした学校づくりをめざすことで、地域とともにある学校を願っています。今まで以上に、地域のみなさんと学校がかかわり合うことで、未来の西浦を大切にしてくれる人材を育てることが可能です。地域のみなさんとともに、西浦の子どもたちを育てようと動き出しました。

西浦の学校・公民館が生まれ変わります



施設整備により以下のような効果が期待されます。

○教育環境の充実

(1) 小中学校の連携

- ・小中学校の集合により小中学校の枠を超えた多様性を育む新たな教育体系を構築し、「地域に根ざした学校」づくりを推進する。
- ・学校行事を小中学校で連携して行うことで盛り上がり期待でき、児童生徒が相互に良い影響を与えることができる。
- ・小中学校で共有するギャラリースペースは、児童生徒にとっての日常的な交流・連携の拠点となる。



エントランス広場イメージ

小・中・公民館
との交流が深く
なります!

(2) 小中学校の教職員の交流・連携

- ・職員室に間仕切り壁を設けないことで教職員同士が情報交換を行える環境となり、連携・交流が強化される。
- ・小中合同授業などで、児童生徒がより充実した授業を受けられるようにするため、小中学校の枠を超えた授業カリキュラムを検討・作成する

○交流の活性化

(1) 共有空間での交流

- ・共有空間（屋外広場、交流室、渡り廊下付近など）は、公民館利用者や児童・生徒が自然と集まる空間となり、活動発表や作品展示などにより西浦地区の世代間交流の拠点となる。



交流の拠点となる地域交流イメージ